インフルエンザについて（第9報）

今週は2014年の第8週です。毎週月曜日ごとに推定患者数は増加を続けていましたが、第7週、第8週と2週連続して前週の推計値を下回り、インフルエンザの流行は峠を越えました（図1）。1週間ごとの累積の推定患者数をみると、第4週は約85万人、第5週は約115万人、第6週は約105万人、第7週は約90万人であり、今シーズンのインフルエンザの流行のピークは第5週であることがわかります（図2）（図1、図2共に http://www.syndromic-surveillance.net/yakkyoku/yakkyoku_nippou/2013_14/index.html 参照）。

インフルエンザウイルスの日本国内の患者由来検体からの検出状況ですが、昨年9月からの、今シーズン（2013/2014年シーズン）を通しての累積の検出数（2495検体）ではインフルエンザA/H1N1pdm2009（以下A/H1N1pdm）が43.9%と最多を占めており、次いでA/H3N2（A香港）亜型（31.4%）、B型（24.7%）の順となっています（図3）。一方、直近の5週間ではA/H1N1pdm（52.6%）、B型（26.5%）、A/H3N2亜型20.8%の順であり、今後はB型の検出割合がさらに増加してくるものと予想されます。

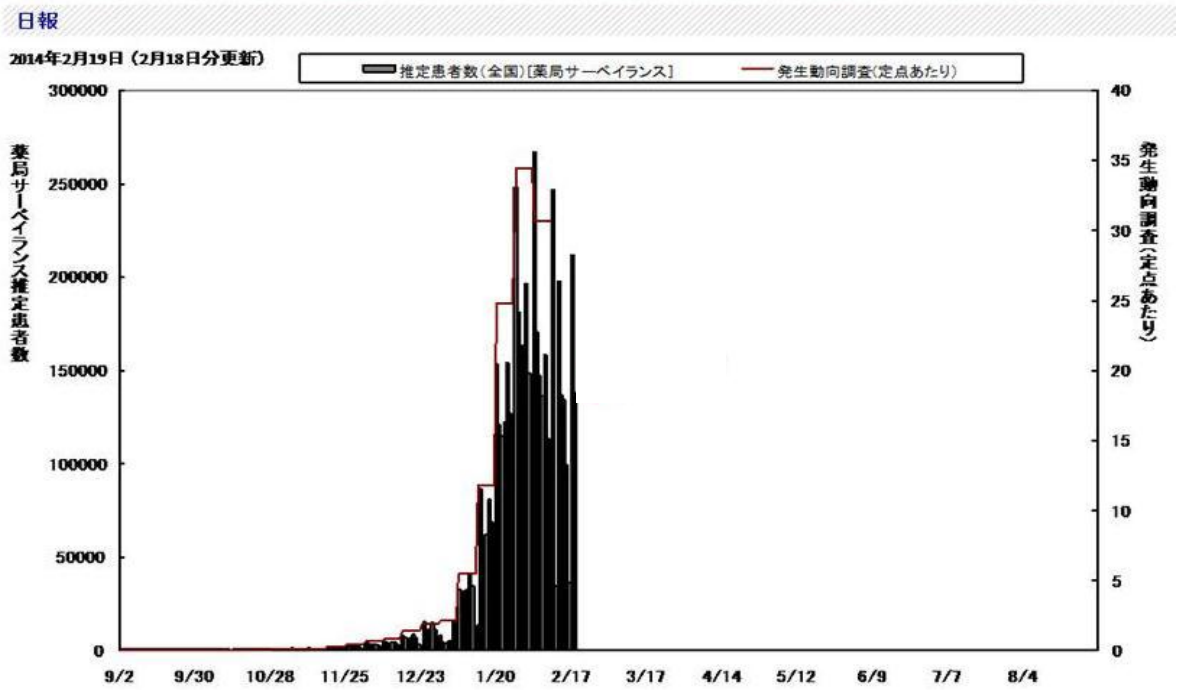

図1. 薬局サーベイランスによるインフルエンザの推計受診患者数の日別推移（2013年9月1日～2014年2月18日）

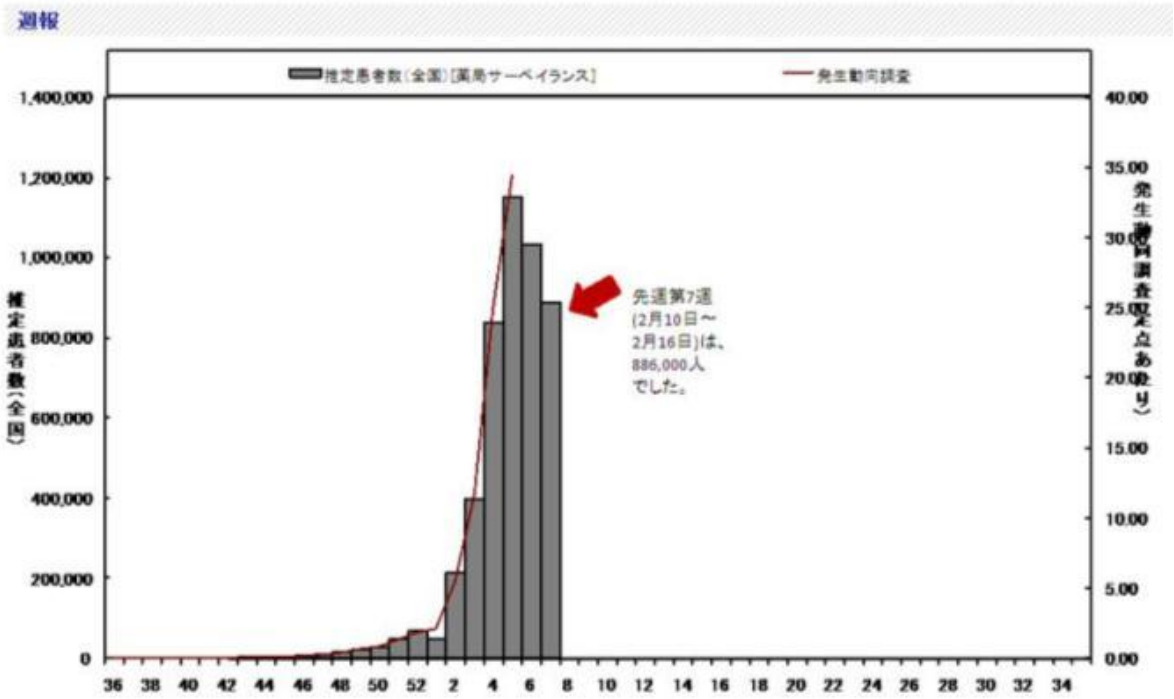

図2. 薬局サーベイランスによるインフルエンザ推計罹患者数の週別推移（2013年第36週～2014年第7週）

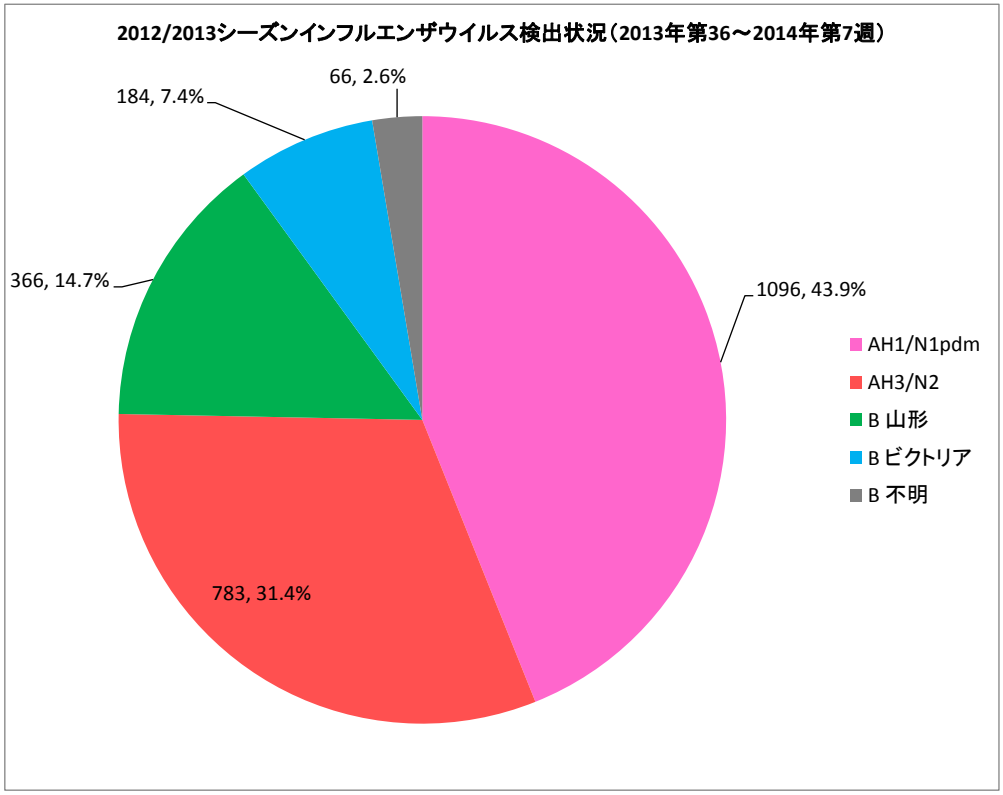

図3. 今シーズンのインフルエンザウイルス検出状況（2013年第36週～2014年第7週）（国立感染症研究所感染症疫学センターホームページ：http://www.nih.go.jp/niid/ja/iasr-inf.html 参照）

今シーズンのインフルエンザの流行は本格化してからはインフルエンザA/H1N1pdm2009が流行の中心であり、例年と同様に2014年第5週が流行のピークとなりました。現在インフルエンザの患者発生数は減少中ですが、B型インフルエンザの患者発生数だけを考えると3月の中旬頃まではまだ増加傾向が続くと予想されます。既にA型のインフルエンザに罹患した人でも、B型インフルエンザの感染・発症を回避することはできません。いましばらくはインフルエンザの流行のご注意いただきますようお願いします。

2014年2月19日

大阪府済生会中津病院ICT
安井　良則